



代理人候補者

ローテーションする新しい顔

市民ネットワークの議会活動

若葉区 山田京子

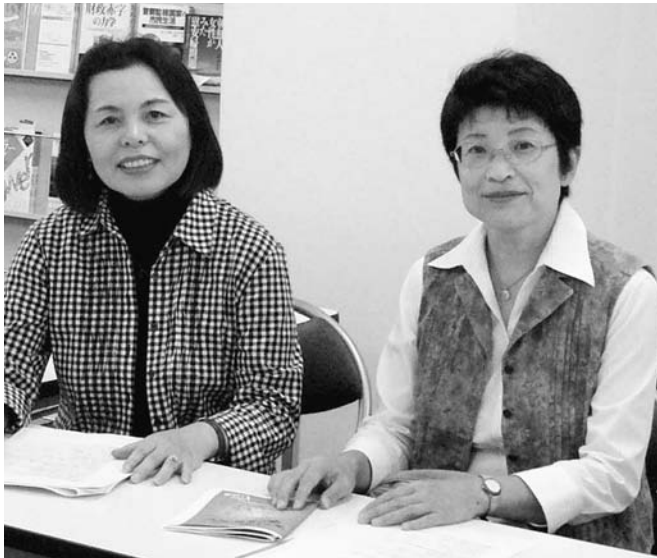
市議会の傍聴に私たちはよく行きますが、初めて行ったとき、あらかじめ用意された質問と答弁を議員と行政が読み上げるだけなのにはびっくりしました。これでは、出席している議員も、市長も眠くなるのは当たり前です。さらに、質問も、答弁もまとめて発言するので、どの質問に対する答えなのか、傍聴者にはとてもわかりにくいと思いました。

また、答弁の中で、たとえば「検討します」という言葉の裏にある意味は、やり取りをした議員でないと、ニュアンスがつかめません。前向きな答えを引き出せたのか、ほとんど前進しないという意味なのか、私たちにはわかりません。

市民ネットワークでは、議会がおわるごとに、各地域で議会報告会をひらきます。そのなかでは、わかりやすく議会の様子を聞くことができます。予算額が何百億円とか何兆円とかになると、生活

とはかけ離れた数字ですから、いったい高いのか安いのか、まるでわかりません。議員に説明してもらってやっと「へえー、そうだったの。」という声が聞こえます。

もし、ネットの議員がいなくて、議事録を見ただけでは、議会の様子はつかめなかったと思います。私たちに議会を近づける大切な役割をはたしているのが、市民ネットの議員なのだと思わためて思っています。



秋山敏子 (美浜区)

山田京子 (若葉区)

もっと女性が輝く千葉市に

美浜区 秋山敏子

少子高齢化は、将来の大きな課題です。子どもを育てやすい環境をつくるのが解決の一つです。こ

れは産む性である女性だけの問題ではなく、社会全体で取り組まなくてはいけないことです。女性は仕事をしながら子育てをすることの難しさから、出産か仕事のどちらかを選ばざるを得ない現実があります。

働く女性が多い県は出生率も高いと政府の調査会の報告がありました。残念ながら千葉県は出生率が低く働く女性も少ない県になっていました。

第一子を出産後も仕事を続けることが出来た女性は23%です。こうした構造的な解決には、個人的な問題である家庭生活における家事や育児、介護などを男女が一緒に行うことが必要ですが、それと同時に保育所の充実、育児休業を取り易くするなど施策として支援すべきことがあります。

両方からはたらきかける事により、社会は住みやすくなるのではないのでしょうか。

女性が社会に進出することは多様性が増し社会の活性化にもつながります。誰もがその人らしく暮らす事は基本的人権であり、誰にも保証された生き方だと思えます。

またDV*のない社会は私達の目指す社会ですが、千葉市のDVの解決への取り組みが見えてきません。DV被害者支援の施策として市営住宅の抽選回数が1回多いだけの現状から、抜本的な対策に取り組めるようにしたいものです。男女が互いに人権を尊重し、対等な関係の中でそれぞれが個性と能力を十分に発揮出来る、男女平等な社会にしたいと考えています。

*DV ドメスティックバイオレンス：恋人や配偶者など身近な者からの暴力



新しいチャレンジャー 山口晴美

挑 戦

元県議会議員 岩橋 百合
市民ネットワーク千葉県政策調査室長

ネットで初めての県議として私が県政に送り出されてからもわずか8年、最初の堂本知事選挙からは5年弱がたちます。
定数98人の巨大県議会、一人では何もできないという人もいましたが、他の会派の議員たちと連携して、市民からの請願を全会一致で実現。自民党議員を含めた千葉県男女共同参画推進議員連盟を作ってその幹事も引き受けました。堂本知事選

挙も県議会に議員がいたからこそ取り組むことになりました。
その4年後の県議選に私自身は敗れましたが、佐倉、市原で県議が誕生、無所属の方も含め3人のネット会派を作ることができました。環境、特に残土・産廃の問題では二人の県議の働きは目覚ましく、市民と一緒に現地調査、情報公開請求、議会質問の3点セットを繰り返し、悪質業者の処分場を撤回させたり、残土条例の改正までこぎつけることができました。

県議会もつと変えたい
来月4月には、みはまネットは新しいチャレンジャー山口晴美を擁立しての再挑戦を決めました。「政令市は県と対等、県議会議員を出す意味が判らない」との声もありますが、ネットが出さなければ自民党や民主党右派の議員が出て行きます。政策決定の場があれば挑戦する意義はある、と私の考えはいたってシンプルです。又新しい事情としては小泉政権で行われた三位一体の改革による税制改正で市民生活に果たす県の役割はむしろ増えています。

千葉県政は堂本知事登場で大きく変化、公共事業の予算が絞られ、福祉や医療、保健、男女共同参画、環境の分野では計画作りからの市民参加が当たり前になりました。道路や箱物建設などと違い、なかなか目に見えないのも事実。しかし今回成立した『障害のある人もない人も暮らしやすい千葉県づくり条例』は全国初の障害者差別禁止条例で、その策定過程にはおおぜいの障害当事者の参加がありました。連日傍聴席が満席、トータルで1344人が傍聴す

るといふ議会も初めてでした。
こういうことが可能になったことこそ、最大の千葉県政の変化です。これらが知事交代でゼロに戻らないよう、県議会を変える必要があります。美浜区の県議選、ネットの候補者にぜひ御注目ください。

千葉市選出県議



県議会は・・・(2003年統一地方選挙)

投票率	40%
議員定数	98人
選挙当選者	76人
無選挙当選者	22人

このうち20人は投票なしで決まっています

自民党 20人
共産党 1人
自由党 1人

会派の構成

自民党	71人	社民県民連合	3人
公明党	7人	市民ネット	3人
民主党	8人	無所属市民の会	3人
日本共産党	4人	水とみどりの会	1人